

各 位

上場会社名	ザインエレクトロニクス株式会社
代表者	代表取締役社長 飯塚哲哉
(コード番号)	6769)
問合せ先責任者	取締役経営企画部長 高田康裕
(TEL)	03-6860-0666)

## 平成23年12月期業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成23年2月4日に公表した業績予想および配当予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成23年12月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,158	△799	△631	△638	△5,241.18
今回修正予想(B)	1,739	△426	△325	△346	△2,845.40
増減額(B-A)	△418	373	305	291	
増減率(%)	△19.4	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年12月期第2四半期)	3,778	166	114	53	441.90

平成23年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,859	719	978	616	5,064.42
今回修正予想(B)	4,010	△855	△627	△791	△6,502.60
増減額(B-A)	△4,848	△1,574	△1,605	△1,408	
増減率(%)	△54.7	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成22年12月期)	7,381	407	341	219	1,805.54

平成23年12月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,158	△821	△653	△655	△5,380.17
今回修正予想(B)	1,739	△442	△341	△357	△2,931.24
増減額(B-A)	△418	379	312	298	
増減率(%)	△19.4	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年12月期第2四半期)	3,778	163	111	50	414.81

平成23年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,859	639	898	553	4,545.58
今回修正予想(B)	4,010	△931	△703	△850	△6,980.49
増減額(B-A)	△4,848	△1,570	△1,601	△1,403	
増減率(%)	△54.7	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成22年12月期)	7,381	398	332	212	1,744.24

#### 修正の理由

当社は2011年から2013年に至る中期経営戦略「TACK100」を掲げ、その達成に向けた取組みを行っています。現在、テレビを始めとする市場環境が急速に激変する中で、平成23年2月4日付「平成22年12月期 決算短信」により公表しました平成23年12月期における第2四半期(平成23年1月1日～平成23年6月30日)および通期(平成23年1月1日～平成23年12月31日)の業績予想を修正いたしました。

テレビ市場の事業環境において急速な激変が生じております。4倍速テレビや3Dテレビに代表されるハイエンド製品の出荷が減少する状況が生じ、テレビ市場顧客におきまして、低価格モデルへのシフト、新機種開発の抑制、テレビ以外の市場への再投資等が急速に生じました。このため、当社がテレビ市場顧客向けに想定していたLVDSおよび表示制御用LSIの出荷が、今期当初に予想した水準の約5割程度に急減する見込みとなりました。V-by-One(R)搭載製品につきましては前期比2倍以上の出荷が見込まれるものの、テレビ市場の急変により通期計画に対しては約4割程度の出荷減少となる見込みです。

また、スマートフォン・携帯電話の分野におきまして、当社は画像処理用LSI(ISP)を提供しておりますが、今期においてはスマートフォンへの急速なシフトが生じ、こうした分野での当社製品の採用が進んでいないため、今期当初の予想に比較して約1割程度出荷が減少する見込みとなりました。

今後の事業展開につきましては、本日公表いたしました「当面の経営方針に関するお知らせ」とおり、当社は、デファクトスタンダード(事実上の世界標準)であるV-by-One(R)HSを提供するポジションを最大限活用するとともに、タブレットPCやスマートフォン向けにLSI新製品を開発し市場投入することなどにより、ビジネスを伸ばしていく方針です。

以上により、第2四半期連結売上高は1,739百万円(計画比19.4%減)、第2四半期連結売上総利益は777百万円(計画比19.2%減)に、また、研究開発費の絞り込みに伴い第2四半期営業損失は426百万円、第2四半期連結経常損失および連結純損失はそれぞれ325百万円および346百万円となる見込みです。

また、通期連結売上高は4,010百万円(計画比54.7%減)、通期連結売上総利益は1,824百万円(計画比53.6%減)となる見込みです。通期研究開発費は戦略上重要なプロジェクトへの一層の重点化を図ることにより、1,948百万円(計画比23.0%減)に修正し、これらの結果、通期営業損失は855百万円、通期連結経常損失および連結純損失はそれぞれ627百万円および791百万円となる見込みです。

## ● 配当予想の修正について

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想 (平成23年2月4日発表)	—	0.00	—	250.00	250.00
今回修正予想	—	0.00	—	0.00	0.00
当期実績	—	—	—	—	—
前期実績 (平成22年12月期)	—	0.00	—	600.00	600.00

### 修正の理由

当社は、今後も経営基盤の一層の強化と今後の積極的な研究開発投資に備えるため内部留保の充実を重視しておりますが、株主に対する安定的な利益還元策の実施も重要な経営課題と認識しており、財政状態及び業績動向を勘案しながら利益配当を行う方針としております。

しかしながら、当期の期末配当につきましては、本日開示の「業績予想の修正に関するお知らせ」に記載の当期業績予想に鑑み、当期の期末の1株当たり配当予想につきまして、誠に遺憾ながら無配とさせていただくことといたしました。株主の皆様には誠に申し訳なく存じますが、早期の収益回復に努めさせていただきますので、何卒ご理解を賜りたくお願い申し上げます。

以上